

平成9・10年度
発掘調査事業報告

付.目垣遺跡 (第97-1次・第98-1次)

発掘調査略報



人面付き土器写真(表)

茨木市教育委員会

例 言

1. この報告は、茨木市教育委員会が平成9・10年度に実施した発掘調査事業報告であります。
2. この報告は、平成9・10年度において実施した埋蔵文化財発掘調査の一覧と人面付き土器が出土して注目されている大阪府茨木市目垣二丁目他に所在する目垣遺跡発掘成果の一部をとりあげたものです。
3. 平成10年6月4日に国立歴史民俗博物館 考古研究部助教授 設楽 博己氏が茨木市立文化財資料館を訪れ、目垣遺跡出土の人面付き土器についての概略と実測図を作成されましたので、巻末に掲載しました。
4. 目垣遺跡の現地調査及び整理作業と人面付き土器に関しては下記の方々のお協力と御指導・御教示によるもので記して感謝の意を表します。

池峯 龍彦（堺市立埋蔵文化財調査センター） 石川 日出志（明治大学助教授） 石野 博信（徳島文理大学教授） 大野 薫（大阪府教育委員会） 大庭 重信（大阪市文化財協会） 奥 和之（大阪府教育委員会）
亀島 重則（大阪府教育委員会） 合田 幸美（大阪府文化財調査研究センター） 酒井 泰子（大阪府教育委員会） 塩山 則之（寝屋川市教育委員会） 設楽 博己（国立歴史民俗博物館助教授） 高村 公之（かながわ考古財団） 中井 秀樹（三田市教育委員会） 永野 香（芦屋市教育委員会） 仁王 浩司（大阪府文化財調査研究センター） 福亘田 佳男（大阪府教育委員会） 濱田 延充（寝屋川市教育委員会） 林 日佐子（大阪府立弥生文化博物館） 深沢 芳樹（奈良国立文化財研究所） 古川 久雄（摂陽文化財調査研究所）
堀江 門也（大阪府教育委員会） 松岡 良憲（大阪府教育委員会） 宮崎 康雄（高槻市立埋蔵文化財調査センター） 免山 篤（茨木市文化財保護審議会委員・名神高速道路内遺跡調査会理事） 森岡 秀人（芦屋市教育委員会） 森田 克行（高槻市立埋蔵文化財調査センター） 渡邊 昌宏（大阪府立弥生文化博物館）

（五十音順）

I. 平成9・10年度埋蔵文化財発掘調査事業の概要

●平成9・10年度埋蔵文化財発掘調査事業

埋蔵文化財発掘調査件数は全国的に増加しており、当市においてもその傾向は同様であります。茨木市における平成9年度の発掘件数は33件で、埋蔵文化財確認の試掘・立会調査件数は152件ありました。また、平成10年度（4月～12月）の発掘・通知件数は9件で、埋蔵文化財確認の試掘・立会調査件数は107件でした。発掘調査原因の事業別件数は、民間事業39件、公共事業3件で、民間事業が全体の約8割の高率を占めています。公共事業は区画整理事業、道路建設事業などが原因の多くを占めており、民間事業では共同住宅、マンション建設工事が多く、国内経済が低迷して民間事業が減少している中で、当市における民間事業が多いのが特徴となっています。

●平成9・10年度市内発掘調査における新知見の概要

平成9・10年度において茨木市教育委員会が実施した発掘調査の中では、今回、発掘成果の一部を取り上げた目垣遺跡以外に、新たに発見された遺跡として、茨木市の北西部に位置する見付山東遺跡があげられます。同遺跡は、奈良時代末から平安時代前半と鎌倉時代を中心とする中世の二時期の集落跡が検出されています。特に、平城京や国府などの遺跡で発掘されたような立派な奈良時代末の井戸が検出されています。井戸の中には格子状に組まれた井戸枠の上に、大木を刳り抜いた井筒が積み上げられていました。同井戸からは「西福」と墨書された土器が出土しており、古代、嶋下郡衙や徳積廃寺に関係があったことを示す遺物も出土しています。

平成9年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(1)

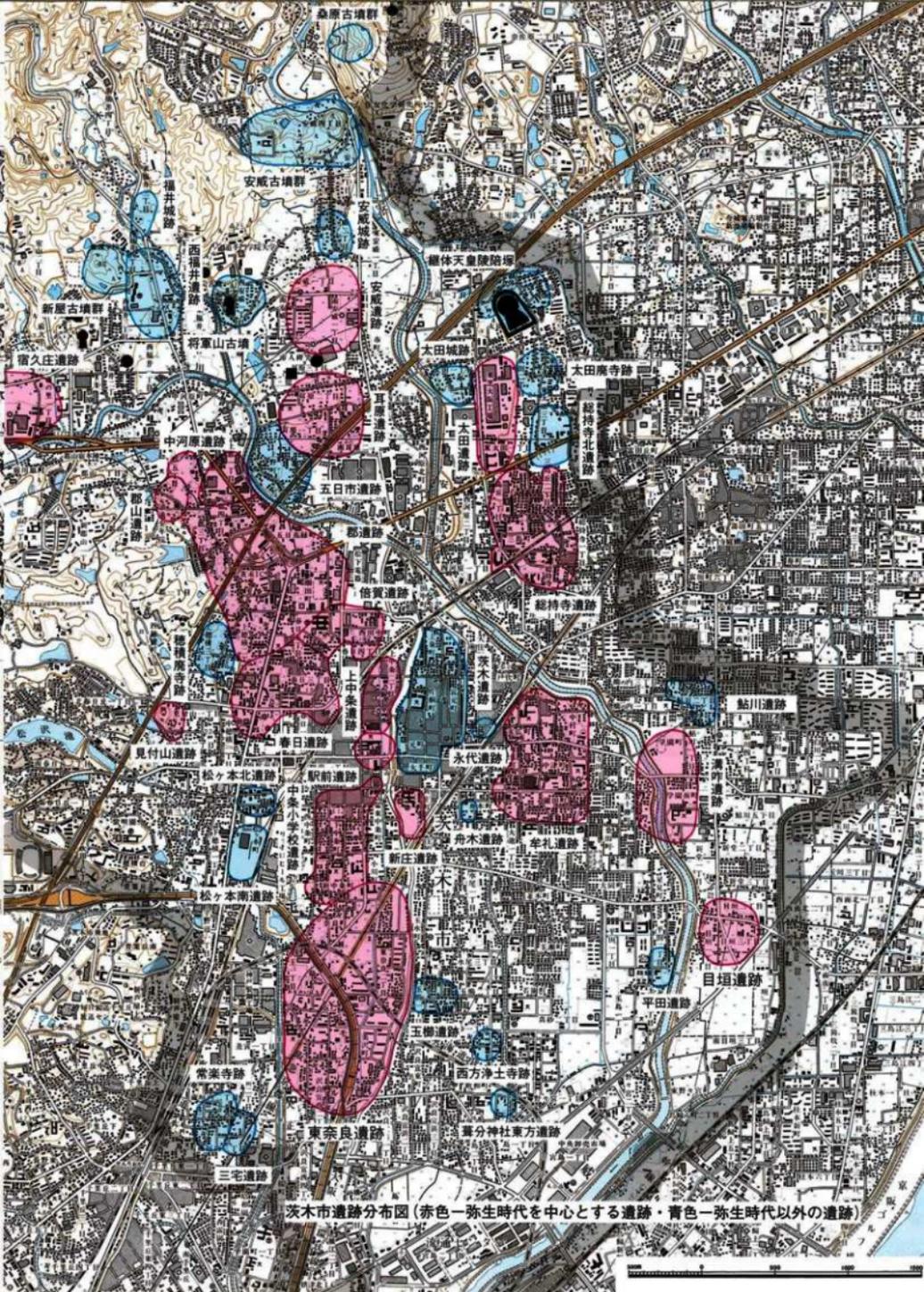
	遺跡名	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容	調査原因
1	郡遺跡	郡三丁目四丁目 他	9. 4. 1～10. 3. 31	6,000㎡	内業整理作業	道路拡幅
2	東奈良遺跡	沢良宜西一丁目 747他	9. 4. 14～ 9. 6. 3	228㎡	弥生～中世 溝、井戸、柱穴	共同住宅建設
3	中条小学校遺跡	岩倉町35-1他	9. 5. 1～ 9. 7. 1	1,268㎡	古墳～中世 掘立柱建物 跡、円形周溝墓、埋没墳	共同住宅建設
4	穂積庵寺跡	上穂積二丁目 343	9. 5. 12～ 9. 6. 7	400㎡	弥生～中世 溝、土壌	共同住宅建設
5	郡遺跡	郡五丁目316他	9. 4. 14～ 9. 5. 13	380㎡	弥生～古墳 流路、木組水路	共同住宅建設
6	郡遺跡	郡五丁目616	9. 5. 26～ 9. 6. 28	270㎡	縄文～弥生 土壌、方形周溝墓	共同住宅建設
7	郡遺跡	郡五丁目575	9. 5. 28～ 9. 6. 21	330㎡	弥生～中世 溝、土壌、柱穴	共同住宅建設
8	郡遺跡	郡五丁目216	9. 5. 26～ 9. 6. 6	200㎡	弥生～中世 墓城、溝、柱穴	共同住宅建設
9	郡遺跡	郡五丁目262他	9. 5. 10～ 9. 5. 28	260㎡	弥生～中世 弥生中期墓城(方形周溝墓)	共同住宅建設
10	郡山遺跡	郡五丁目600-1	9. 6. 2～ 9. 6. 30	270㎡	弥生～中世 弥生中期墓城(方形周溝墓)	共同住宅建設
11	郡遺跡	郡五丁目212	9. 6. 18～ 9. 7. 4	220㎡	弥生～中世 溝、焼土壌	共同住宅建設
12	郡山遺跡	郡五丁目602	9. 6. 30～ 9. 7. 16	160㎡	縄文～弥生 沼澤原	共同住宅建設
13	郡遺跡	上穂積二丁目 527-3	9. 6. 23～ 9. 7. 25	160㎡	弥生～中世 溝、柱跡、土壌	共同住宅建設
14	総持寺遺跡	総持寺一丁目 379-1	9. 7. 7～ 9. 8. 2	203㎡	平安～中世 掘立柱建物跡、緑陶陶器	共同住宅建設
15	耳原遺跡	五口市一丁目 172-1	9. 7. 1～ 9. 8. 11	178㎡	弥生～中世 自然河道	倉庫建設
16	郡山遺跡	郡五丁目282他	9. 7. 17～ 9. 8. 4	333㎡	弥生～中世～近世 埋没自然流路	店舗付共同住宅建設
17	中条小学校遺跡	東中条町409-1 他	9. 7. 16～ 9. 8. 11	302㎡	弥生～古墳 溝、土壌	店舗付共同住宅建設
18	春日遺跡	上穂積一丁目 156	9. 8. 18～10. 3. 31	1,530㎡	内業整理作業	共同住宅建設
19	耳原遺跡	耳原一丁目 167-3	9. 8. 21～ 9. 9. 30	304㎡	弥生～中世、土壌、 柱穴	共同住宅建設
20	春日遺跡	上穂積二丁目 1233	9. 9. 1～ 9. 12. 1	620㎡	内業整理作業	共同住宅建設
21	安威遺跡	十日市町420-1 他	9. 9. 17～ 9. 9. 30	45㎡	弥生～古墳 柱穴	倉庫建設
22	見付山東遺跡	見付山二丁目 212-4	9. 10. 1～ 9. 12. 26	1,000㎡	奈良～中世 井戸「西福」 罌雪土器、掘立柱建物跡	老人保健施設建設
23	宿久庄遺跡	藤の里二丁目 480-2他	9. 10. 8～10. 3. 31	1,017㎡	内業整理作業	倉庫建設
24	春日遺跡	春日三丁目125	9. 10. 15～ 9. 11. 18	330㎡	古墳～中世 溝、井戸(曲物付設)	共同住宅建設
25	耳原遺跡	耳原一丁目248	9. 11. 12～ 9. 11. 28	285㎡	弥生 土壌、柱穴	共同住宅建設

	遺跡名	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容	調査原因
26	耳原遺跡	耳原一丁目 246	9.11.17～9.12.9	296㎡	弥生 柱穴	共同住宅建設
27	目垣遺跡	目垣三丁目 110-1	9.12.10～10.3.20	1,008㎡	弥生～中世 付・目垣遺跡略報参照	倉庫建設
28	中条小学校遺跡	下中条町114	9.12.10～10.2.6	360㎡	弥生～中世 井戸、 掘立柱建物跡、溝	共同住宅建設
29	真砂遺跡	真砂一丁目580	10.1.6～10.2.12	399㎡	弥生～中世 木棺墓、井戸	共同住宅建設
30	東奈良遺跡	東奈良三丁目 390-1	9.12.25～10.3.31	204㎡	内業整理作業	共同住宅建設
31	東奈良遺跡	沢良宜西一丁目 735他	10.1.19～10.3.6	400㎡	弥生～古墳 井戸、砥石	共同住宅建設
32	春日遺跡	春日一丁目 27-1他	10.3.2～10.3.31	460㎡	弥生～中世 溝、井戸、 埋没自然流路	共同住宅建設
33	東奈良遺跡	沢良宜西一丁目 724	10.2.4～10.2.16	36㎡	弥生 溝・条	防火水槽設置

平成10年度埋蔵文化財発掘調査一覧表(2)

	遺跡名	調査位置	調査期間	調査面積	調査内容	調査原因
1	牟礼遺跡	舟木町403-24 他	10.4.1～10.5.29	650㎡	中世～近世 水田跡、土壌、柱穴	共同住宅建設
2	郡遺跡	郡五丁目790他	10.4.6～10.5.29	416㎡	弥生中期～鎌倉 溝、土壌、柱穴	共同住宅建設
3	中河原北遺跡	上郡二丁目240 他	10.4.16～10.6.20	1,100㎡	古代～中世 土師器 自然河川、掘立柱建物跡	店舗建設
4	総持寺遺跡	西河原二丁目 41-1他	10.5.8～10.6.30	260㎡	縄文晩期～中世 溝、土壌、落ち込み	共同住宅建設
5	東奈良遺跡	新中条町917他	10.7.2～10.8.12	450㎡	弥生～中世 溝、土壌、柱穴	共同住宅建設
6	中条小学校遺跡	奈良町585-1他	10.7.13～10.7.18	61㎡	古墳 柱穴、土師器、須恵器	専用住宅建設
7	中穂積遺跡	中穂積一丁目 68-1他	10.8.27～10.9.18	105㎡	奈良～近世 井戸 土壌、柱穴、掘立柱建物跡	共同住宅建設
8	目垣遺跡	目垣三丁目 123-1他	10.8.17～10.12.20	996㎡	弥生～中世 付・目垣遺跡略報参照	倉庫建設
9	中条小学校遺跡	下中条町447-3	10.12.3～10.12.28	360㎡	古墳前期 溝、土壌、柱穴	共同住宅建設

ただし、平成10年度の内業整理作業を除く



茨木市遺跡分布図 (赤色一弥生時代を中心とする遺跡・青色一弥生時代以外の遺跡)

Ⅱ. 目垣遺跡発掘調査の概略

濱野 俊一

●はじめに

目垣遺跡は淀川左岸の平均標高1 m～2 mの低湿地に立地する遺跡です。昭和48年に、関西電力鉄塔建設工事の基礎掘削の際に、弥生時代の土器などの遺物が出土したことによって発見されました。同年の鉄塔建設工事に伴う確認調査では、弥生時代の中前期半（畿内第Ⅱ様式）を中心とする土器や石器が多量に出土しました。しかしながら、発掘調査は湧水が多く、層厚が1 mを越える遺物包含層（黒色粘質土）を確認するにとどまりました。

この調査の結果、目垣遺跡は考古学的にも重要な遺跡として周知され、特に、淀川北岸に立地する東奈良遺跡や安満遺跡とともに三島地域における弥生時代の拠点集落として考えられるようになりました。その後、平成5年度に実施した調査では13世紀から15世紀にかけての中世集落の一端が検出され、弥生時代から中世にかけて、連続と続く複合遺跡であることがあらためて確認されました。



昭和48年関西電力鉄塔調査風景



平成5年度共同住宅建設に伴う発掘調査（中世遺構面検出状況）



▲目垣遺跡周辺風景（左奥 安威川・総持寺方面を望む）



▲目垣遺跡既往の調査地点及び集落推定範囲

●平成9年度の発掘調査（第97-1次）の成果について

平成9年度の発掘調査で、いままで遺跡の実態が判らなかった目垣遺跡において初めて弥生時代の中期前半（畿内第Ⅱ様式）を中心とする明確な遺構が確認されました。主要な遺構としては溝、土壇、柱穴を中心として、幼児や胎児を葬ったと推定される土器棺墓や集落を区画すると思われる溝や井戸そして北に向かって谷状に落ち込む自然地形等を検出しています。

出土した遺物は、弥生時代の拠点集落である証拠として、弥生土器だけでも約150箱近く出土しています。また、縄文時代晩期後半の深鉢片（船橋式）が出土しており、目垣遺跡が、今まで考えられていたよりも、遺跡としての始まりが弥生時代よりも古く遡ることが判明しました。

弥生時代の石器類も豊富に出土しており、伐採具である太形蛤刃石斧や加工具の偏平片刃石斧そして穂柄具である石廔丁などが見つかっています。めずらしい石器としては、大型石廔丁が残欠を入れて4点も出土しています。注目すべき遺物としては、新聞にも取り上げられた人面付き土器があります。人面付き土器は調査区南南部の大型土壇の北側の肩部から、日常生活において煮炊きをする甕（弥生時代中期前半・畿内第Ⅱ様式）などの土器の破片と一緒に出土しました。この土壇の正確な規模は残念ながら、この土壇が形成された後の、新たに張られた溝によって土壇が壊されているため、正確な規模は不明ですが、残された土層観察用の土手から考えると、本来の土壇の大きさは推定直径2 m50cmぐらいの大きな土壇と思われます。また、土壇内の層位は焼け土や炭化物が混じったシルト質の土で形成されていました。このため、集落内で人面付き土器がどのような形で使用されたかは不明ですが、頸部以下が欠損した状況からなんらかの祭りに使用されて日常生活に使用する土器と一緒に破棄されたものと思われます。



▲目垣遺跡（第97-1次）全景写真



A



B



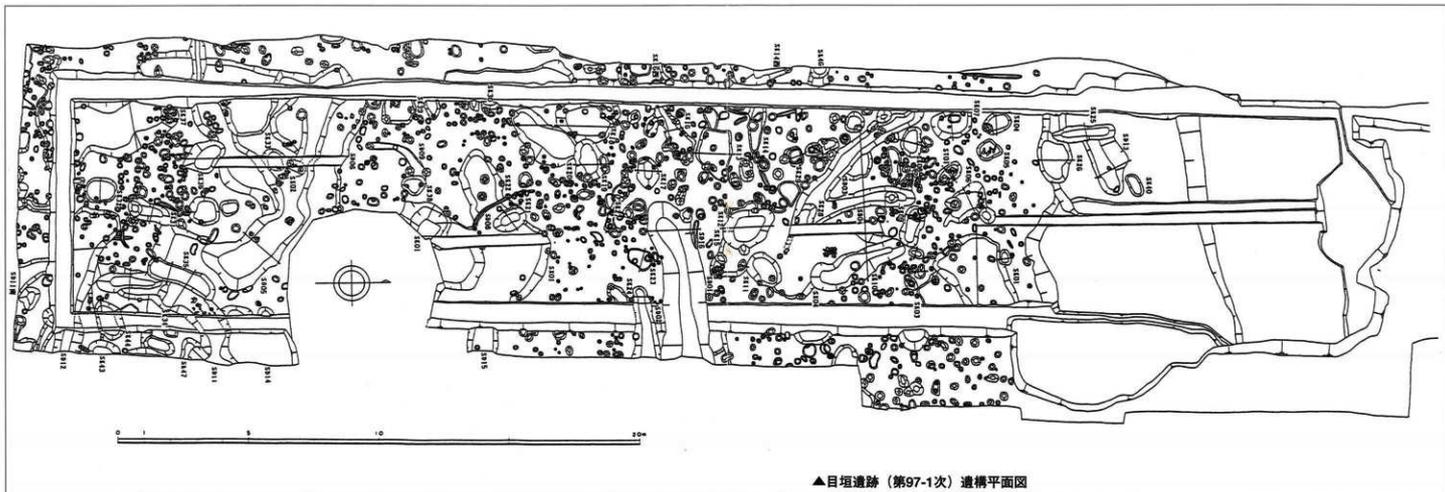
D



C

- A. 遺構全景（南から）
 B. SD-11土製勾玉他検出状況
 C. 大型石丁・石匙丁一括写真
 D. 大形甕転用土器棺（ST-01）

▲目垣遺跡（第97-1次）各遺構・遺物写真



▼土製勾玉側面写真

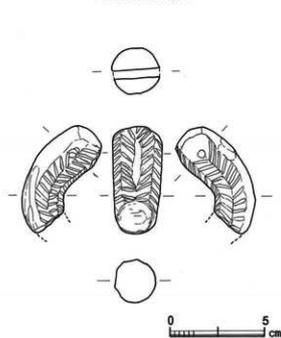


▼縄文時代晩期深鉢片（船橋式）

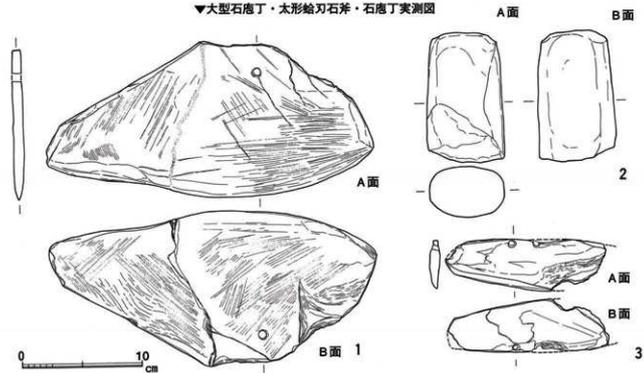


▲目垣遺跡（第97-1次）検出遺構・出土遺物

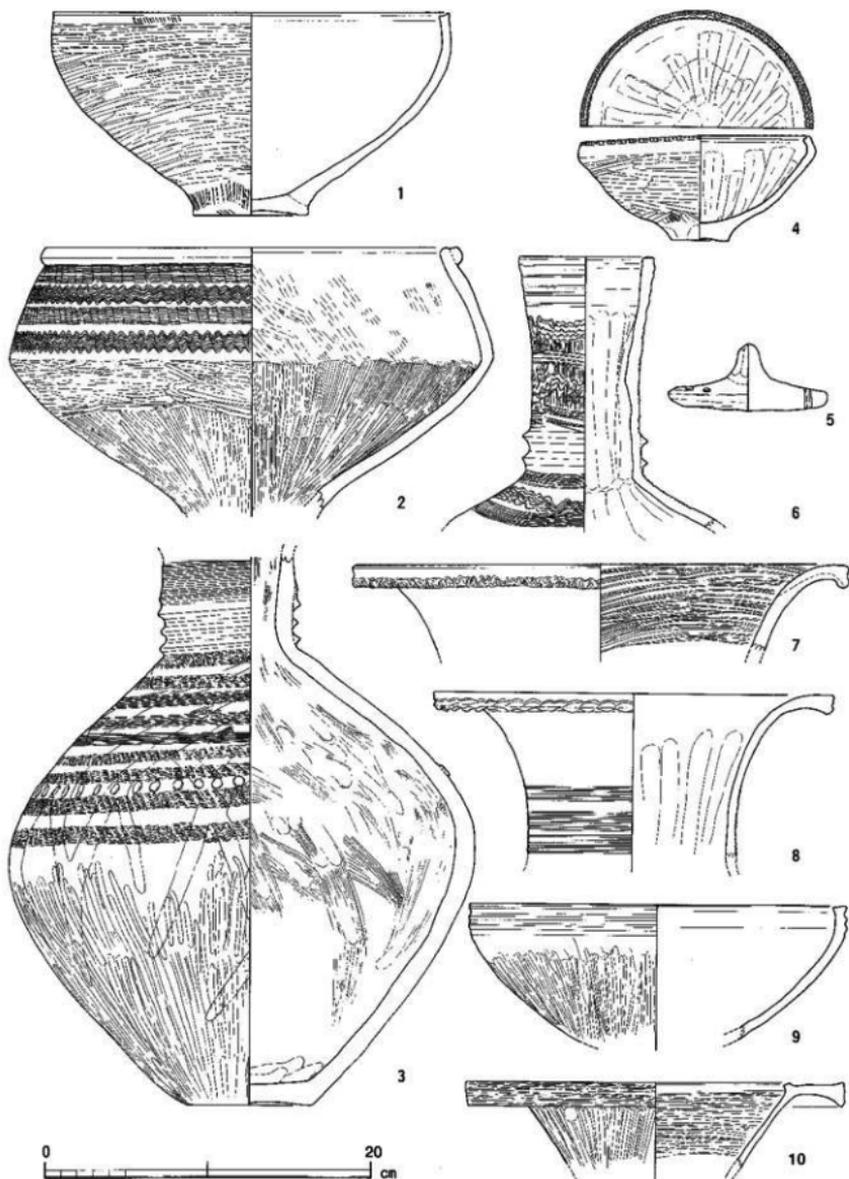
▼土製勾玉実測図



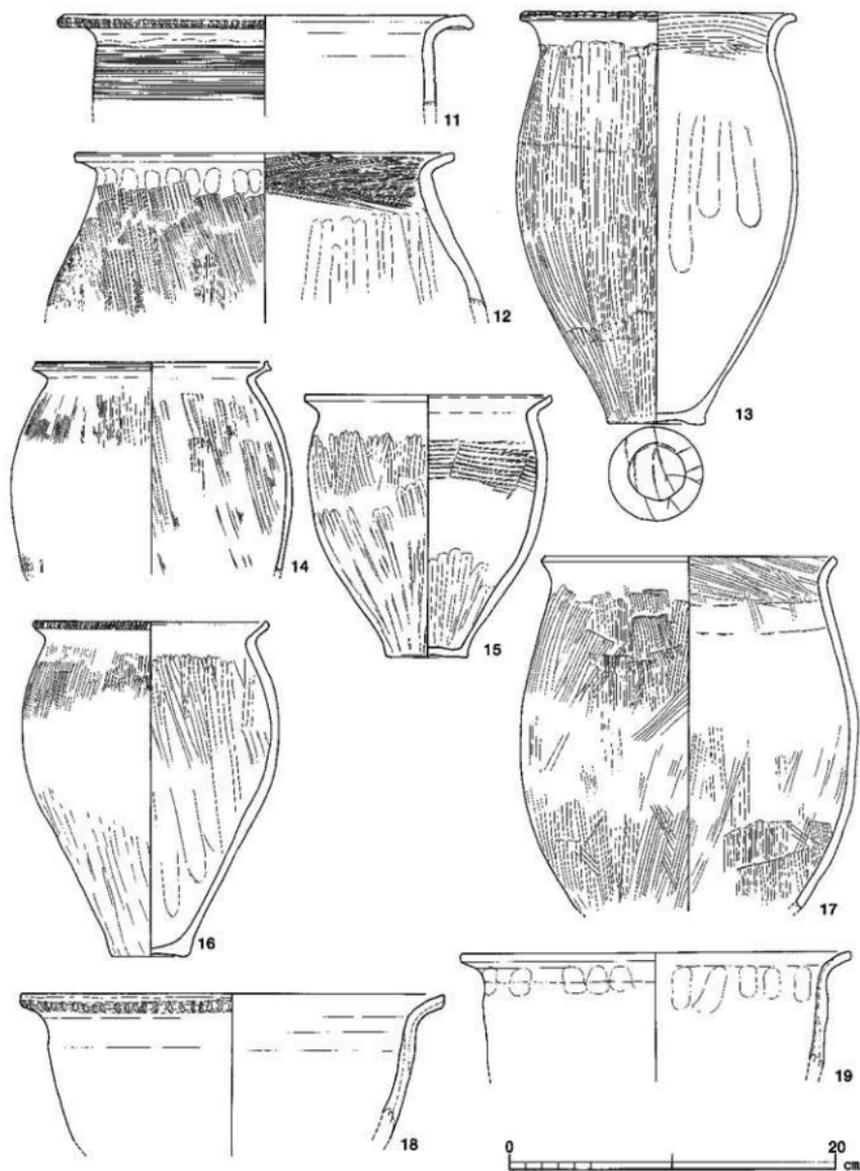
▼大型石庖丁・太形給刃石斧・石庖丁実測図



目垣遺跡（第97-1次）検出遺構・出土遺物



▲目埴遺跡（第97-1次）出土弥生土器実測図 I



▲目垣遺跡（第97-1次）出土弥生土器実測図 II

平成10年度の発掘調査（第98-1次）の成果について

平成9年度の発掘調査地点の西側において実施した調査によって再び、弥生時代の遺構・遺物が検出されました。この調査では、平成9年度の調査で遺構が希薄だった弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）の遺構と弥生時代中期前半（畿内第Ⅱ様式）を中心とする遺構の二時期にわたって遺構面が検出されました。弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）遺構は安威川がもたらした洪水堆積層の砂の上に形成され、調査区の西側において集中して検出されています。主要な遺構としては大きな柱根が残存している大型の掘立柱建物とこの建物を区画する溝、そして区画溝の外側には幼児や胎児を葬ったと思われる土器棺墓や土器が多量に投棄された土壌そして井戸・柱穴等が検出されました。また、洪水による砂の堆積層が無い調査区の中央部から東側にかけては自然の落ち込みになっており、この場所からは、近畿地方では初例と考えられる石庖丁などに使われる粘板岩の原材が4本立って検出されました。また、東奈良遺跡で出土した銅鐔の銚型と同じ質の石材（凝灰岩質砂岩）の砥石も出土しており、当時の石材の流通を考えるのに貴重な遺物も見つかっています。弥生時代中期前半（畿内第Ⅱ様式）を中心とする主要な検出遺構としては、平成9年度の発掘調査地点と同じく土器を多量に投棄した土壌や溝、柱穴が多数検出されています。

出土した遺物は、調査地点が集落の中心に近い事を如実に物語る証拠として、弥生土器だけでも、前回と同程度の調査面積ながら、土器量は約200箱を越えて出土しています。弥生時代の石器類も、伐採具である太形蛤刃石斧や加工具の偏平片刃石斧、穂摘具である石庖丁そして戦闘用の武器である磨製や打製の石剣が豊富に出土しています。めずらしい石器としては上記の粘板岩の原材や銅鐔の銚型と同じ質の石材（凝灰岩質砂岩）の砥石以外に環状石斧が残欠を入れて2点出土しています。特殊な遺物としては、弥生時代中期後半（畿内第Ⅳ様式）の土壌から柳葉形の銅鏃が1本出土しています。



▲目垣遺跡（第98-1次）全景写真



A



B



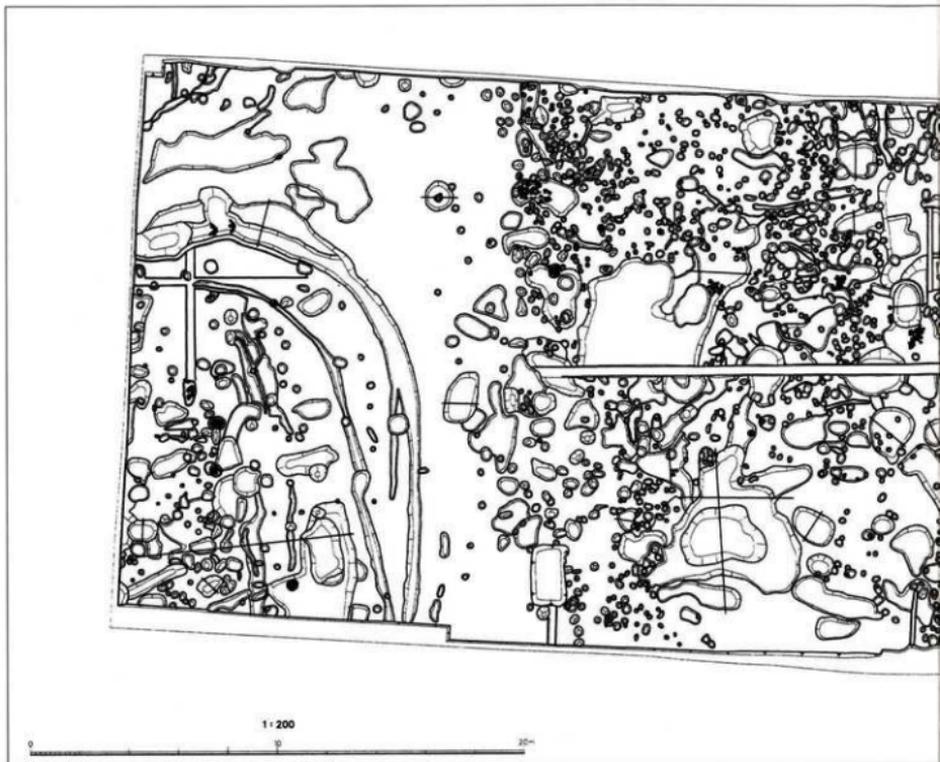
C



D

- A. 調査区南西部区画溝内遺構群
(大型堀立柱建物他)
- B. SX-05土器群出土状況
- C. 土器棺(ST-01)検出状況
- D. 粘板岩原材一括写真

▲目垣遺跡(第98-1次)各遺構・遺物写真



▲目垣遺跡（第98-1次）遺構平面図

▼SK-28土器出土状況



▲調査区南東部遺構面直上環状石斧出土状況



▲調査区南東部遺構面出土環状石斧



▼SK-60環状石斧出土状況



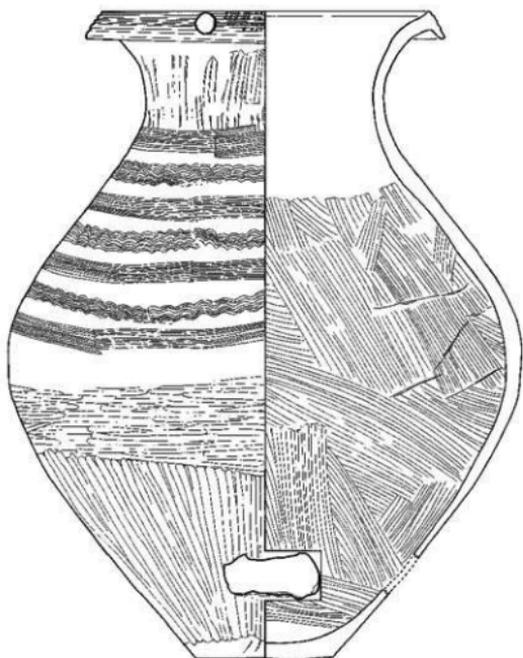
▼SK-60出土環状石斧



▼SK-44無頸壺出土状況



▲目垣遺跡（第98-1次）出土遺物・検出遺構



▲広口壺転用土器棺 (ST-01) 実測図

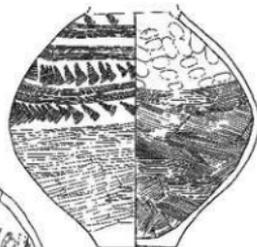


目垣遺跡 (第98-1次) 検出遺構・出土遺物

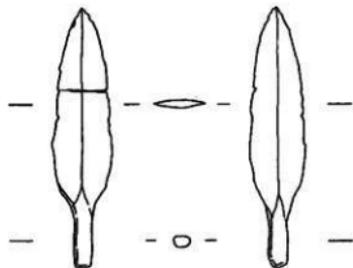
▼SX-05 出土土器実測図



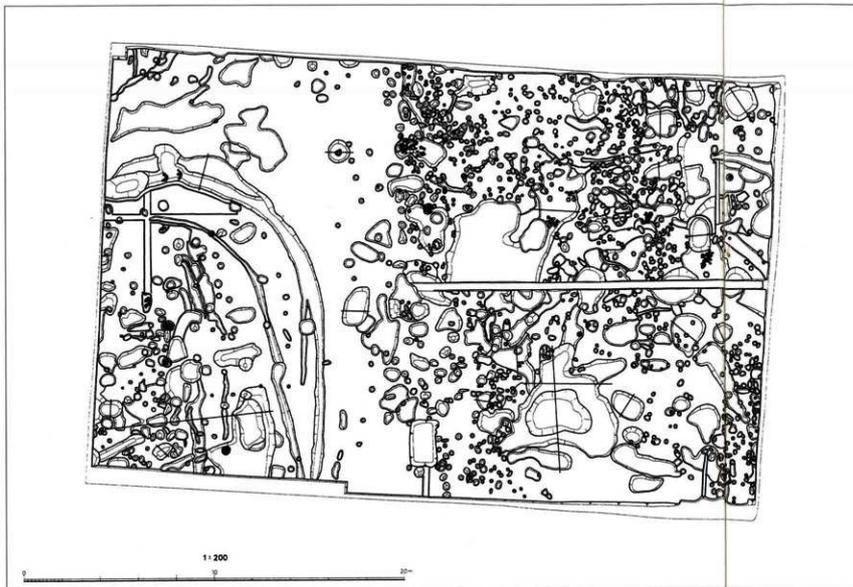
▼SK-44 出土土器実測図



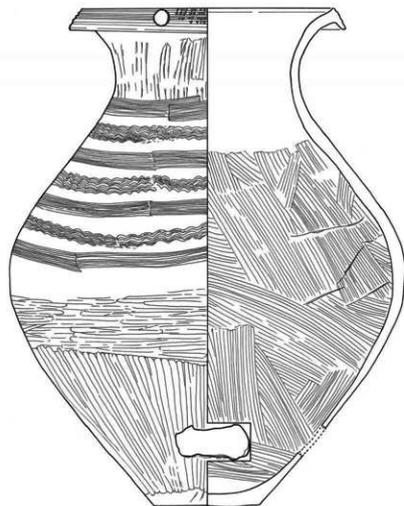
▼SK-02 出土柳葉形銅鏃実測図



▲目垣遺跡 (第98-1次) 検出遺構・出土遺物



▲目垣遺跡 (第98-1次) 遺構平面図



▲広口蓋転用土器棺 (ST-01) 実測図

目垣遺跡 (第98-1次) 検出遺構・出土遺物



▼SK-28 土器出土状況

▲調査区南東部遺構面上環状石斧出土状況

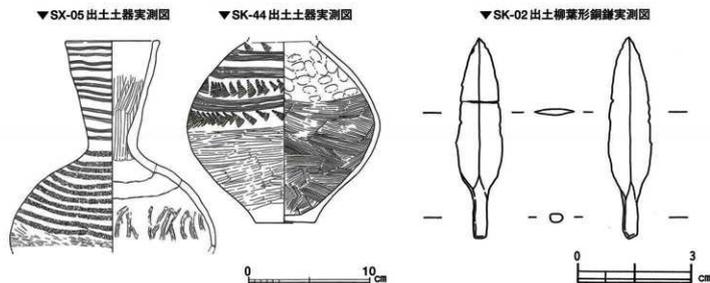
▲調査区南東部遺構面上環状石斧出土状況

▼SK-44 無頭査出土状況

▼SK-60 環状石斧出土状況

▼SK-60 出土環状石斧

▲目垣遺跡 (第98-1次) 出土遺物・検出遺構



▼SX-05 出土土器実測図

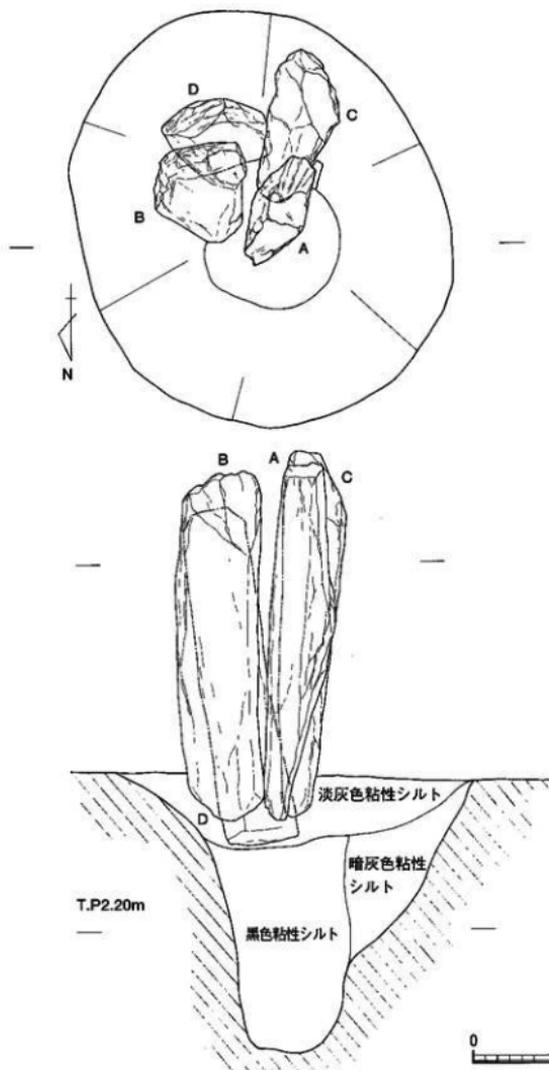
▼SK-44 出土土器実測図

▼SK-02 出土柳葉形銅鏃実測図

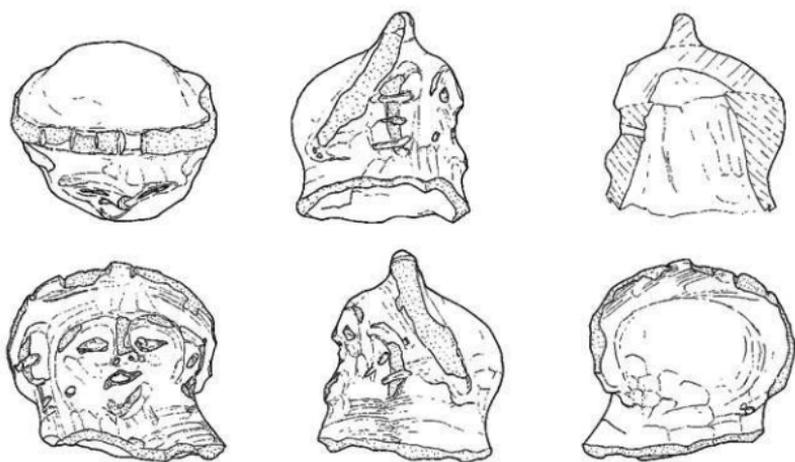
0 10 cm

0 3 cm

▲目垣遺跡 (第98-1次) 検出遺構・出土遺物



▲粘板岩原材埋納ピット立面図・断面図



▲目垣遺跡出土人面付き土器実測図（設楽博己氏実測・杉本亜澄美トレス）

目垣遺跡出土人面付き土器について（設楽博己氏）

目垣遺跡から出土した人面付き土器は、瓢形の壺形土器の上半部到人面を付けたものである。類型は、身近なところでは京都府森本遺跡、兵庫県大蔵山遺跡などに知られ、中部・関東地方では静岡県有東遺跡、神奈川県上台遺跡、ひる畑遺跡、千葉県一島台遺跡など数例が知られている。

このうち、近畿地方の例は顔部の破片で、目垣例との比較は困難だが、上台例は頭部が開いた容器状をなす点で目垣例と異なり、有東・ひる畑例は頭部が閉じて丸くつくられる点で、目垣例と共通している。二島台例の頭部の突帯は、目垣例と近似した特徴といえる。

近畿地方の例は弥生Ⅰ～Ⅱ期、中部・関東地方の例は弥生Ⅳ期である。弥生Ⅰ～Ⅲ期の中部・関東地方には別のタイプの人面付き土器や、土偶形容器が存在しているので、中部・関東地方の人面付き土器のうちの頭部が閉じたⅣ期のものは、黒沢 浩氏がいうように、近畿地方からの影響によって成立したものであろう。上台例は、関東固有の容器としての伝統に、近畿地方の例が影響を与えて成立したものだらう。

中部・関東地方の弥生Ⅳ期に、塚原集落や方形周溝墓など、近畿地方で培われた農耕文化の要素が顕著になることが、有東・ひる畑例が中部・関東地方に出現する背景として考えられよう。中部・関東地方の弥生Ⅳ期の人面付き土器は、これまでⅠ～Ⅲ期の人面付き土器の系統の中で理解されてきた。すでに石川日出志氏や黒沢氏が、その中に複数の類型があることを指摘しているが、人面付き土器には複雑な系統と相互の影響関係が存在したことを具体的に明らかにした点で、目垣例は意義深い。

近畿系の例は、中部・東部系と異なり、顔面に線刻をもたない。線刻がイレズミの表現だとすると、それをもつ一群とまたない一群が存在した点で興味深い。（原文通り）



人面付き土器写真(裏)

平成9・10年度発掘調査事業報告
付. 目垣遺跡 (第97-1次・98-1次)
発掘調査略報

発行日 平成11年3月

発行 茨木市教育委員会

印刷所 株式会社日東印刷